

2018年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2018年度に開講した主な科目について述べる。なお、2018年度より、2018年度以降生対象の新カリキュラムがスタートしているため、主に新カリキュラムについて記載する。

- ① 必修科目（演習系）：1年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門セミナー」は2年次対象）では、文献読解、文献検索の方法、批判的思考、問いの立て方、発表の方法など、大学での学びの基礎を鍛えた。また、3年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、各セミナーにおいて基本文献の輪読をさせたり、各自のテーマを掘り下げ、先行研究を批判的に読み込ませたりするなどした。また4年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆のための個別指導を行った。その結果、183名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された（うち3名は春学期末に提出）。
- ② 必修科目（講義系）：1年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を開講した。また、1年次対象として「ヨーロッパ／アジア・オセアニア／アメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2年次対象）を開講した。「グローバル地域文化論」と「グローバル・スタディーズ論」は、コース横断科目であり、グローバルなレベルで生じている事象や問題を扱いつつ、グローバル地域文化論に関する基礎的な講義を行った。また、「ヨーロッパ／アジア・オセアニア／アメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、3コースそれぞれに科目を設置し、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げた。
- ③ 選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」を開講し、本年度は夏に米国のロサンゼルス（7名）、カナダのトロント（1名）、オーストラリアのメルボルン（2名）、中国の上海（4名）に学生を派遣した。帰国後、学生たちによる研修成果報告発表会を公開で行なった。また「海外語学プログラム（英語）」を開講し、20名の学生が、ウェスタン・ミシガン大学にて1 Semesterにわたる研修を受け、事後授業では英語による成果発表を行った。
- ④ 選択必修科目（講義系）：留学経験を将来のキャリアに生かすため、留学経験を踏まえてグローバル人材となるための資質について考え、議論し、キャリア計画を立てることを支援する科目である「留学とキャリア形成」では、6名の学生が履修した。
- ⑤ 選択科目：コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。
- ⑥ その他：海外留学をする学生が計画的に卒業単位を取得できるよう、昨年度より、1 Semesterの登録最高単位数を増やしている。

II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2019 年 1 月に 1 年次生（2018 年度生）と 3 年次生（2016 年度生）に対して学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。その結果、学部教育への満足度が高い一方で、講義科目や外国語科目をさらに充実させる必要等が明らかになった。このようなアンケート調査で得られた結果を反映する形で、カリキュラム改善が行われ、2018 年度より実施されている。その成果を待ちたいところである。

父母懇談会は、2018 年 11 月 11 日（土）に行った。参加者数 146 名（112 組）、個別面談 31 組であった。学部学生の学習状況に関して意見交換をした。父母からいただいた貴重なご意見は、今後の学部運営に活かしたい。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年2回、研究機関誌『GR』（論文、翻訳、書評、書誌、各種の批評と紹介、会員の活動報告など）を発行した。2018年10月に第11号、2019年3月に第12号が刊行された。

2018年11月7日（水）には第6回グローバル地域文化学会 学術講演会「Democracy, Rationalism, and Popper」（イスタンブール大学准教授 Turgut Gümüsoğlu先生）を主催し、学内の参加者を中心に英語で活発な質疑応答が行われた。

また、教員の研究活動の充実と学生会員への教育を兼ねて小規模講演会開催補助制度を設けているが、この制度を活用した小規模講演会として、2018年6月14日（木）に「平和学 ワークショップ&懇談会」（講師：奥本 京子（大阪女学院大学教授））、2018年7月13日（金）に“Babylon Revisited: History, Memory, and Forgetting in Psalm 137”（講師：David W. Stowe（ミシガン州立大学教授））、2018年10月3日（水）にドキュメンタリー映画“Vincent Who?”（カーティス・チン監督・作品）上映会、2018年10月23日（火）に「「あの日から」のクロニクル—東日本大震災・原発事故と私たち」上映会（講師：渡部 義弘（福島県立新地高等学校教諭））、2019年1月25日（金）に“Sexless Iraq: What Happened to Popular Romance in Iraq War Literature?”（講師：Daniel E. McKay（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科准教授））を開催した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。

(URL:<http://kenkyudb.doshisha.ac.jp>)

IV. 国際交流活動

学部独自でセメスター・プログラム、海外インターンシップ、グローバルキャリア講演会、語学検定試験支援（受験料半額補助）、IELTS 受験対策講座を行っており、学生の留学、語学力向上、国際的ビジネスへの就職支援を実施している。

延世大学校人文芸術大学国語国文学科と本学部との学生交換協定により、本学部生5名を派遣し、また先方から2名を受け入れた。

海外からの研究員などの受け入れ：アーモスト大学アーモスト・同志社フェローとして Dominguez Antinella（ドミンゲス・アントネラ）氏（2018年9月1日～2019年8月31日）を受け入れた。さらに、客員研究員として、木村あや氏（2018年6月7日～2018年7月20日）、韓昌勳（ハン・チャンフン）氏（2019年2月1日～2020年1月31日）、韓壽永（ハン・スヨン）氏（2019年1月20日～2019年7月20日）、Facijs Michael（ファツィウス・ミヒヤエル）氏（2019年3月1日～2019年3月31日）を受け入れた。

その他の教育活動における国際交流：2018年5月に日本学術振興会グローバル展開プログラム「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」の一環として向正樹准教授が、カリフォルニア州立大学フラトン校で開催された学会で「日本における蒙古襲来イメージの変遷—前近代・近代絵画から現代の漫画まで—」と題した発表を行った。発展セミナーの学生とともにフィールドワークで神戸モスクを訪ね、イマームと対話した。

2019年1月17日にアメリカ研究所主催のコロキウムにミズーリ大学のジェイ・セクストン教授が招待されたので、外交・国際関係に関心の強い本学部学生に情報提供したところ40名ほどの参加があった。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあった。

清水穰教授による京都両足院での片桐功敦氏との対談（4月15日）、Gallery916での上田義彦氏との対談（4月21日）、広島現代美術館での松江泰治氏との対談（12月8日）、大分市美術館での蜷川実花氏との対談（1月5日）。

向正樹准教授による大阪府高齢者大学校「世界史から学ぶ科」における、「時代の見取り図 一体化する世界」（9月13日）、「一体化する世界 モンゴルのユーラシア統合」（9月20日）、「時代の見取り図 近代への歩み」（9月27日）という3回の講義。

Esta Tina Ottman 准教授による同志社大学での「Costa Rica's peace constitution — a lecture supporting the community film screening of the film 'A Bold Peace'」と題した公開講座（4月24日）。高槻市生涯教育センターでの「An Intercultural Revisitation of the Kindertransport: Jewish Children's Escape from the Nazi Death Camps」と題した講演（1月28日）。

Aysun Uyar 准教授による京田辺・同志社ヒューマンカレッジでの「21世紀の地球環境問題とグローバルガバナンス」と題した講演（6月16日）。

二村太郎准教授による西陣まちおこし会の西陣朝市マルシェへの役員としての参加。

向正樹准教授による池田高校での模擬授業（7月19日）。崎田智子教授による尼崎北高校での模擬授業（7月18日）。

VI. 学生支援活動

①学習支援:外部の外国語(英語・初修外国語)検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続きIELTSの集中対策講座・検定試験の団体受験を実施し、留学を卒業要件とする本学部の学生に向けて、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援:「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計7回開催した。第7回目は、7名の本学部2・3期生に就職活動の体験談を語ってもらい、4～6期生との交流の機会を設けた。

第1回 高橋 早咲氏(株式会社JTB 京都支店営業一課)「旅行業界で働くとは——グローバルに広がる旅行業界の仕事」(5月22日)

第2回 石原 賢一氏(独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ) 京都貿易情報センター 所長)「京都企業の国際展開とジェトロの活動」(6月5日)

第3回 菊地 恵理子氏(タイガーマーブ株式会社代表取締役)「企業という選択——個人最強時代を生き抜くために」(7月10日)

第4回 山本 和樹氏(宝ホールディングス株式会社経理・シェアードサービス部)「私のキャリアプラン——『フランス留学』がもたらした自信と変化」(10月30日)

第5回 深見 高明氏(みずほ証券株式会社グローバル投資銀行部門プロダクツ本部シニアエグゼクティブ)「投資銀行業界におけるグローバル人材——Think globally, Act locallyからのDon't think. Feel!」(11月13日)

第6回 葛上 奈緒氏(株式会社パソナ営業本部)「ファーストキャリアの選び方」(1月15日)

第7回 本学部学生(2014・15年度生)「先輩に聞いてみよう!GR学部生の就活体験談」(1月15日)

以上